

学術研究実績報告書

申請書との変更点およびその理由(内容、日程、実施場所、参加者等で変更があれば記入)

変更点なし

研究実績概要

研究代表者(申請者氏名・所属機関・職名):

徳田昭雄・立命館大学イノベーション・マネジメント研究センター・センター長

共同研究者(氏名・所属機関・職名):

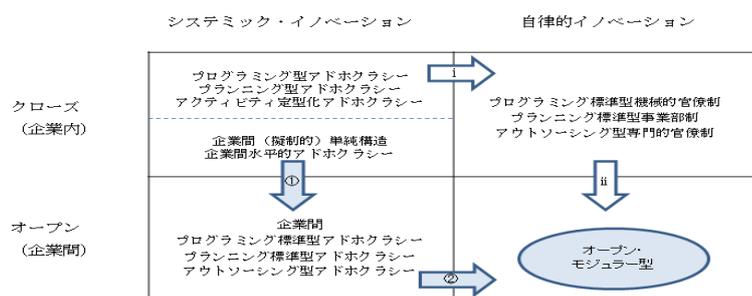
研究課題名:

車載組込みシステム技術の標準化と普及プロセスが企業の競争力に与える影響の分析

研究期間:2015年9月14日 ～ 2016年9月15日

概要:(1,000字以内で記述)

車載組込みシステムの製品アーキテクチャは、急速にクローズド・インテグラル型からオープン・モジュラー型へと変容している。本研究では、企業が製品アーキテクチャを投企的(proactive)に変更していく動的プロセスを捕捉するこのできる理論モデルを構築した。これにより、日本が標準化をリードするための産学連携や組織間アーキテクチャのあり方について、理論に裏付けられたアクションプランの提示が可能になる。下図は、そのプロセスにおいて事前に企業が必要とする、あるいは準備しておくべき組織構造をまとめたものである(同図では企業がアーキテクチャを変更するにあたって、デジュール型とデファクト型の2つの経路①②及びi iiないしその混合)を辿ることを示している)。



漸く我々は、アーキテクチャのシフトという動的なコンテキストの中で企業が適切な組織ドメインを選択し、効果的・効率的に「インターフェイス」を策定するプロセス、そのプロセスにおける企業の投企的な取り組みを分析の俎上に載せることが可能になった。モデルの有効性・通用性については、本モデルを利用した事例の分析を通じて一例えばそれは国際標準の成立過程や、その成果の分析に有効と思われる一稿を改めて検証したい。なお、研究成果の一部は、2015年11月25日にパリで開催されたComplex Systems Design & Management (査読有り)にて報告されている。